

タイトル：タイと日本、良いところだけを組み合わせるはどうか？

先日、泰日経済技術振興協会の S 先生と講義について簡単な打合せをしていました。

その時にクロスカルチャー・クラス（タイ日異文化交流クラス）の話になりました。

(S 先生)

前田先生、先日のクロスカルチャーの授業！

大変だったんですよ～！

P 先生がかわいそうでした...

それよりも、酷すぎる！

怒りとか乗り越して悲しくなりました

~~~~~

まず背景を説明しますと、泰日経済技術振興協会では、いろいろなコースがあります。

クロスカルチャー（異文化論）

安全・衛生

リーダーシップ などがあります。

私は数あるクラスで「日本人向けの労働法」を担当しています。

S 先生の話をついたところ...

講義を受けに来たのか、講師を打ち負かしにきたのかが判らない受講者がいた...  
と。

クロスカルチャーを担当している P 先生（タイ人講師）は日本語が出来、日系企業で技術者として働いた経験がある日本、タイ双方の文化、企業文化に精通した方です。

私も良く存じ上げている方です。

大変温和な方で、物事を広く多方面から見られる視野の広い方です。

クロスカルチャーの授業はタイ人向けと日本人向けがあり、このときは、日本人向けのクラスだったようです。

そこで...とある参加者の方が、こんなことを言ったそうです・・・

なんでタイ人って、こんなに程度が悪いんですか？

家庭や学校でどんな教育をしてるんですか？

P 先生は、時代背景や宗教などなど、考えられる状況を説明したそうです。

しかし、その方は、ずーっと 30 分以上にもわたって、発言者から見てタイの悪い（と思われる）ところを P 先生に向かって吐き続けたそうです。

周りの静止も聞かず、たくさんの参加者がいるにも関わらず、ずーっと、ずーっと攻め続けたそうです...

この話しを伺ったときに思ったのは...

この参加者の受講目的は何だったのだろうか？？

講義は、“クロスカルチャー”でした。

相互理解を目的とし、外国人である日本人がタイでよりスムーズに働くためにタイを理解しお互いより良い関係を作りましょう...

こんな目的があるはずです。

また企業は、働いている方々にお給料は支払ったり、タイ国に税金を払って、貢献はしているとは思いますが。

しかし、タイに進出した外国企業にもメリットがあって、進出しているんだと思います。

双方の力関係に強弱はなく、対等な立場であると思います。

タイ国で、働かせてもらっている...

住まわせてもらっている...ではないでしょうか？

日本も良いところばかりではないと思います...

お互いの欠点を補い合い、良い部分を更に伸ばすことは可能なんじゃないかと思います。

日本とタイの良いところを組み合わせた“ハイブリッド経営”でいいんじゃないかと...

そもそも...参加の目的が、おそらく違っていたからこんな状況になっちゃったのかな〜と推測しました。